

第3学年 音楽科学習指導案

に組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 濱田 宏明

1 題材 ドレミで歌おう

教材 ドレミあそび

「ドレミで歌おう」 小原光一 作詞 作曲者不明

「海風きって」 高木あきこ 作詞 石桁冬樹 作曲

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第2学年題材「ドレミであそぼう」において、体を動かしながら階名唱したり、鍵盤楽器を演奏したりする活動を通して、階名と音高との関わりを感じ取りながら表現することの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、様々な曲を階名唱したり、鍵盤ハーモニカで演奏したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、本題材では、五線譜上の音符と音高との関わりを感じ取り、階名唱したりふしづくりをしたりする活動を通して、拍の流れを感じて音高を感じ取りながらハ長調の階名で表現する能力を育てるとともに、ハ長調を階名視唱することに関心を持ち、階名と音高とを結び付けてとらえる能力を高めることをねらいとして、本題材「ドレミで歌おう」を設定した。

ここでの学習は、リズムや旋律の感じを生かした演奏を工夫する能力を育てる第4学年「ふしの感じを生かして」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れを感じて音高を感じ取りながらハ長調の階名で表現する能力を高めるためには、楽譜と音高との関連を意識した学習指導を展開し、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語の指導も併せて行い、音楽の流れを感じ取りながら楽しく読譜することに慣れるようにすることが効果的である。特にこの期の子どもたちには、リズムや音程に注意するとともに、旋律の表現を豊かにすることを目指して聴唱することが大切である。また、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって、〔共通事項〕との関連を十分に図り、まとまりのある音楽をつくる喜びを味わうようにすることが大切である。

具体的には、まず、「ドレミあそび」では、五線譜に対する理解を深めることができるようにするために、拡大五線譜を準備し、音符の位置と階名、五線や縦線、ト音記号について、拡大五線譜の上で動きながらとらえさせるようにする。

次に「ドレミで歌おう」を取り上げる。この教材は、ドレミ体操をしながら歌詞唱して音高をとらえたり、鍵盤ハーモニカで指くぐりや指またぎの奏法を身に付けさせたりするのに適している。そこで、ここでは、階名唱や分担唱など子どもたち同士のかかわりをもたせた多様な活動を設定し、音高を感じ取りながら正しい音程で階名唱できるようにする。

さらに、「海風きって」を取り上げる。この楽曲は、子どもたちが海の様子をイメージしやすく、簡単なふしづくりができる教材である。そこで、ここでは、海の様々な様子の写真やイラストを見せ、イメージ作りの参考にすることができるようにするとともに、題材の主なねらいとする音階や拍の流れだけでなく様々な音楽の要素を生かして、自分のイメージに合っているか振り返りながらふしづくりを進めていけるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは、階名と音高とを結び付けてとらえることで階名で表現することへの関心・意欲を高め、正しい音程で階名視唱したり、ふしづくりをしたりしようとし、楽しく音楽とかがわっていこうとする態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態 (調査対象 3年に組 男子19名 女子19名)

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	ドレミで歌うことは好きですか。
	はい (31) いいえ (7)
②	その理由を教えてください。(複数回答)
	【「はい」の理由】 ・楽しい (18) ・声に出すのが好き (5) ・音楽が好き (4) ・リズム感がつく (2) ・分かりやすい (2)
	【「いいえ」の理由】 ・むずかしい (3) ・緊張する (2) ・歌えない (1) ・音楽がきらい (1)
③	ドレミで歌うことのよさはなんですか。
	・楽器でひけるようになる (21) ・おぼえやすい (8) ・歌が上手になる (6) ・音程がわかる (2) ・リズムがよくなる (1)
④	「かえるのがっしょう」を鍵盤ハーモニカで演奏しましょう。
	・正しい指づかい・音階で演奏できる (28) ・正しい指づかい・音階で演奏できない (10)
⑤	簡単な階名をよむことができる。
	・できる (11) ・できない (27)

①②から、子どもたちの多くが階名で歌うことを楽しく感じ、階名で歌うことに抵抗を感じていないことが分かる。一方「好きではない」と答えた子どもたちは、階名で歌う技能的な難しさを不安の理由に挙げている。そこで、楽しく階名唱に慣れ親しむ活動を取り入れ、拍の流れを感じ取って階名で歌うことの楽しさを味わえるようにしていく必要がある。

③から、階名を覚えることで楽器を弾く際に便利であるという利便性を中心に挙げている子どもが多いが、一方で音程を意識して考える子どももいる。そこで、単に階名で歌うことにとどまるのではなく、音高を意識している子どもの考えを取り上げながら正しい音程で歌ったり、ふしづくりをしたりすることができるよさを感じ取ることができるようにする必要がある。

④⑤から、既習曲については多くの子どもが正しい階名や音程で表現することができているが、まだ階名の知識については、ほとんど知らない子どもが多い。そこで、拡大五線譜等を利用して、体を動かす活動を通して繰り返し階名に親しませながら定着を図る必要がある。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導にあたっては次のようなことに留意したい。

ア 拍の流れを感じ取りながら階名で歌うことの楽しさを味わえるようにするために、ドレミ体操をしながら階名唱や歌詞唱をする活動を取り入れたたり、拡大五線譜の上で動いたりワークシート上を指で示したりしながら階名唱をする活動を取り入れたたりすることにより、子どもたちが興味・関心をもって活動に取り組めるようにする。

イ 正しい音程で階名唱することのよさを感じ取らせるために、伴奏の音に頼らず階名唱させ、階名唱することで音程がとりやすくなることを感じ取らせるようにする。また、階名の分担唱の活動を取り入れることにより、容易に階名唱できるよさを感じ取らせるようにする。

ウ 拍の流れを感じ取りながら階名唱したり、自分でつくったふしを鍵盤ハーモニカで演奏したりすることができるようにするために、速度を遅くした演奏から始めて、次第に速度を上げて練習させたり、拍の流れを感じ取れない子の背中を拍に合わせて軽くたたいて拍の流れを感じながら演奏させたりして、演奏する喜びをくりかえし味わうことができるようにする。

3 目 標

- (1) 階名と音高とのかかわりや、ハ長調の階名唱に関心をもち、正しい音程や拍の流れにのって演奏できているかを振り返りながら、階名唱やふしづくりの活動に進んで取り組むことができる。
- (2) ドレミ体操や階名の分担唱、ふしづくりなどの活動を通して、階名と音高とを結び付けてとらえることができる。

(3) 拍の流れや音高を感じ取りながらハ長調の階名視唱をしたり、鍵盤ハーモニカで旋律をつくって演奏したりすることができる。

4 指導計画 (全7時間)

過程	時	教材	主な学習活動	教師の働きかけ	
課題把握	1	「ドレミあそび」	ドレミで歌ってあそぼう。	○ 五線譜に対する理解を深めることができるように、拡大五線譜を準備し、音符の位置と階名、五線や縦線、ト音記号について、拡大五線譜の上で動きながらとらえさせるようにする。	
課題追求Ⅰ			○ ドレミの交互唱をする。 ○ 五線譜の仕組みについて話し合い、拡大五線譜の上で遊ぶ。 階名がよめるようになったよ。		
課題追求Ⅱ	2	「ドレミで歌おう」	歌に合わせてドレミ体そうをしたり、五線ふの上でうごいたりしよう。	○ 音高を感じ取りながら正しい音程で階名唱することができるように、子どもたち同士のかかわりをもたせた多様な活動を設定し、階名唱や分担唱の活動に取り組みさせるようにする。	
	3		○ 「ドレミで歌おう」の範唱を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ ドレミ体操しながら歌詞唱し、拡大五線譜上で遊ぶ。 みんなで楽しく歌っている感じを生かして、けんぱんハーモニカで演奏しよう。		○ 指くぐりや指またぎの奏法を身に付けることができるようにするために、ペアをつくって確認し合ったり、速度を遅くして練習し徐々に速くしていったりする。
	3		○ 鍵盤ハーモニカの範奏を聴き、感じたことを話し合う。 ○ 指くぐりや指またぎの仕方を知り練習する。 体や指を動かすことで、音の高さを感じ取ったよ。		
課題追求Ⅲ	4	「海風きって」	二つのふしの感じのちがいを生かして、えんそうしよう。	○ アの部分のはずんだ感じを生かして歌うことができるように、歌詞の内容を基に海原を進む船や楽しそうに泳ぐイルカをイメージさせるようにする。	
	5 (本時)		○ 「海風きって」を聴き、曲の感じについて話し合う。 ○ アははずむかんじで歌い、イはなめらかな感じで演奏する。 海をイメージしたふしづくりをしよう。		○ 「海風きって」のよさや特徴を、「音階」や「リズム」、「強弱」等の音楽を形づくっている要素を基に話し合わせる。 ○ 既習事項を生かし、様々な音楽の要素をもとにした工夫の交流をする。
	6		自分のイメージに合うか確かめながら、つくったふしの中間発表をしよう。		
まとめ	7		○ 中間発表・鑑賞する。 ○ 友達からの意見を基に、さらに工夫することを話し合う。 ○ 発表での反省を基に、さらに練り上げる。 つくったふしの最終発表をしよう。	○ 自分たちの音楽づくりに生かすことができるようにするために、活動が順調に進んでいるグループの作品を聴いたり、行き詰っているグループの意見を取り上げてアドバイスしたりするような場を設けるようにする。	
			○ 相互発表・鑑賞をする。 ○ 学習のまとめをする。 音階を覚えると音高や音程がわかって楽しいな。 拍の流れだけでなく速さや強弱を工夫するともっとイメージに近づくな。	○ 音楽と豊かにかかわりをもつ意欲を高められるようにするために、今後の学習や生活とのかかわりという視点をもたせて振り返りをさせるようにする。	

5 本 時 (5 / 7)

(1) 目 標

ア 海のイメージを生かしてふしづくりをするよさに関心をもち、進んで活動に取り組むことができる。

イ 拍の流れや音階、リズムや強弱などの音楽の要素を生かしてふしづくりをすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

重点化している「拍の流れ」や「音階」といった要素だけでなく、他の音楽を形づくっている要素も取り入れて表現の仕方を工夫することができるように、意見を交流しやすいグループの活動を行う。また、友だちの発表などから他の音楽を形づくっている要素に気付くことができるように、他の友だち、またはグループがどんな点に着目して表現の工夫をしているかが分かるように板書する。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
課題把握	1 前時「海風切って」の学習を振り返り、活動の見通しをもつ。 ・ 拍の流れや音階に気をつけてふしづくりをするんだ。 (下線部・重点化された要素)	(分) ↑ 8 ↓	○ 重点を置く音楽の要素に迫ることができるように、前時のワークシートに記入した「感じたこと」や「気付いたこと」を発表させるとともに、学習の意欲を高める。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 海をイメージしたふしづくりをしよう。	↑	○ 曲の情景に合う工夫を導き出すことができるように、音楽の要素を基にした、工夫の仕方を考えさせる。
表現の工夫	3 ふしづくりをする際の工夫について話し合う。 既習事項を想起して 階名以外の音楽の要素にも着目 拍の流れ 音階 リズム ・付点でのふしづくり ・8分音符に分割 強弱 ・終りにかけて強く、または弱く 交流 多面的にとらえる	↑ 30 ↓	○ 様々な音楽を形づくっている要素に着目できるように、表現の工夫について言葉で表したり、友だちと交流したりするグループ活動の場を設定する。(多面的に音楽をとらえる段階)
相互発表・鑑賞	4 相互発表・鑑賞する。 ・ 自分もほかの友だちが使った音楽の要素を生かしてみたいな。 ・ もっと強弱に気をつけると船が元よく進むイメージのふしになりそうだ。(下線部・重点化以外の要素)	↓	○ 音楽を形づくっている要素を基にして曲の気分を感じ取ることができるようにするために、曲の気分と、音楽を形づくっている要素とを結び付けている子どもの意見を全体で取り上げるようにする。
まとめ	5 本時を振り返り、学習のまとめをする。 ・ 音階や拍の流れだけでなく、友だちが使ったリズムや強弱も工夫してふしづくりをしていくと、自分のイメージに近くなったよ。	↑ 7 ↓	○ それぞれの表現のよさを感じ取ることができるようにするために、相互発表・鑑賞する場を設ける。
			○ 曲想が様々な音楽の要素の絡み合いにより生まれていることが分かるように、グループ活動で使用した小黒板を提示し、それを基に振り返りを行う。
			○ 子どもたちが音楽を多面的にとらえるよさを感じられるようにするために、本時の活動を称賛しながら振り返り、次時につなげていく。